

山内(豊信)容堂公の真実

東大井林町会

立会小学校と大井公園に隣接して土佐藩・山内容堂公のお墓があります。『海が見えるこの丘に埋葬してくれ』との遺言で墓がつくられたそうです。

慥(たし)かに、そこから70年ほど昔までは海が見えました。私には立会小学校の校庭から南極観測船宗谷の出航を見送った記憶があります。

最近読んだ司馬遼太郎さんの『酔って候』によると、容堂公は武芸、詩作に優れ、自分の考えを明確に述べる英邁闊達(えいまいかつたつ)で度胸ある人物のようです。時は幕末、容堂公には幕府への忠義と勤王との両面があり、討幕を目指す薩摩や長州とは一線があったように思います。安政の大獄ではその煽りを受けて、公職を辞し33歳で隠居。以後数年間鮫洲での生活が続きます。詰め腹を切らされたようなその境遇の中で、容堂公は何を思い暮らしていたのでしょうか。

その後復権して、大政奉還では中心的役割となり、活躍しました。動乱の時代であり、毎日が緊張とストレスの連続であったのでしょうか。容堂公には酒が気持ちを和らげる最良の薬であったように思います。

因みに坂本龍馬について、龍馬は郷土であり藩主・容堂公に謁見(えっけん)できる身分でなかったこと、早くから脱藩して他地区で活動していたことで、二人に面識はなかったようです。

生涯酒を好み、大酒飲みで豪放磊落(ごうほうらいらく)な容堂公の生き様を私は大いに共感しています。先日この文を書くにあたり、古墳のような形のお墓を参拝してまいりました。合掌

松井 一雄

出典 文春文庫 司馬遼太郎『酔って候』



〈山内容堂公の墓〉

花海道コスモスの種まきと

バスハイクの紹介

大井立会町会

7月5日(日)午前10時より、NPO法人しながわ花海道主催のコスモスの種まきに参加しました。

参加諸団体を気にかけて巡回してくださる花海道永尾さんのご指導で、朝顔の支柱を使って浅い溝を引き、そこに種を蒔いて薄く土をかぶせ、手で優しく整えました。以前は鳥よけのつもりで親のカタキのように踏みつけていました。どおりで花の咲き方が今ひとつだった訳です。



〈本当の種まき日和〉



〈勝手に生えているキバナコスモス〉

早朝まで降っていた雨のお陰で土は柔らかくて耕すまでもなく、この後雨になるとの予報なので水やりの心配もなく、暑くもなかったので汗をかかずに作業はスムーズかつ手早く終了しました。今から開花がとても楽しみです。

コスモスの花咲き誇る頃、9月27日(日)立会町会恒例の日帰りバスハイクを開催します。

行き先は昨年に続き水族館、今回はアクアワールド大洗水族館です。担当が水族館を気に入っているらしく、強くお勧めしています。町内の皆様、詳しくは掲示板ポスターを御覧下さい。多くの方々のご参加をお待ちしております。

